

Y1354

5

119

史 料 館

熱海溫泉圖彙

完

角叙



腕乃痛の長壽痛とらへ海も老の足り

聖業なりく來會中キミ小田キミ病あのち身あもあ

是乃熱あの海あの磯あ乃音あ中あ笑ある温泉あ

浴あせんあとあ盆あ前あの蚊あやあ火あいありあいあつあ

在男あ児あはあまありあきあれあちあのあ子あ乃あまあるあ角あ叙あ

やあめあ京あ水あ城あ伴あひあ七あ夕あもあきあぬあのあ後あ叙あ

見あ陽ありあ柳あのあ物あ所あはあ近あまあ京あ橋あ城あ叙あ

豆小田原まで冬二つの猿身坂三の山は延
く横たふ雨も逢おのれ外郎のお登り
やうば右北方とふを左より曲りて熱海
のそよよさしうらぬ山駕籠籠れおろく
桃尻を乗早川村も静子越へ石橋山
乃星舟夜も昼もさしづ米窪村よ飯
茶屋なく根度川小賦を巻るさきさき
おしふとあそびあそび所の雪吹の山越は息

杖を憐しく雷さの半場登りまき江
の浦の眺望を女如く赤澤山よ角力のやうな
小揚もあそびまより濱よさしづめ
熱海へ三里のゆきやうく股の殿足坂の志
舟ひ加る筆子うらて伊豆の御社子建久の音と
釋り熱海女渡部の客舎やうらぬ
北里や北は屏風の峯城建ちまより冬
巨槌城まき東南の扇れ海を聞て

夏も固舟の持女もあつた遠き大島に
彩雲の暮れを張るおとく近き初崎の
藤亥の故屋我多むす中似たり沖の白帆
を天城麻平とて走王磯乃知私兵と浪よ
徳て踏む境若松れ堂我持里鳥帽子
宮昔れひささ色城著りり滄海巖岳の
脚多々天工自持の大機関をまよ編地の裾
乃宮まよ鏡まよふとえき繪行折兵

おめまりぐ此地は藩多り挽舟細子の之巡り金
金環を浴らや賦一々入湯の外かよふを
さしもあつた白駒の隠城空くせんも張三本四
よひうけまば羅面のりやま硯城瀉くを視
所別を記し京水が畫圖を架るりの紙
いさへ熱海温泉圖彙と題せり藤中の業
の公忙しけまを少漏し見のりし引か
よの書も多るまよし例の拙夫筆のまよひあ

の与市美名わらふ従者豊三我死の地と道の名とり小墓あり

▲米嘴村▲根府川●御園形あり禁命箱根小同ト御形所六

家主の判百姓六村役の判ニ浪人・西医師・割髪の人・小人をよは者何

人 但内何人を浪人とも医師とも小人とも成りまより根府川石坂切は

なりたり石坂の加こもふ多し▲江の浦あまの左右山つぎ左リ海岸

光まで眺まよし殊ふ江の浦ハ終景ニ▲赤澤村●赤沢山あり東鏡

曾我物語小又くさる赤沢山ハ武所あると云▲河場村▲吉廣村三リ以へん

俣豆石坂切はま小東より程よき中食の立場ニ▲川河さうや川あり▲鳴沢

▲俣豆山十八丁●俣豆権現の社及の傍ハ在万葉集と云し古あまき名取ニ

○熱海形勝 伊豆国加茂郡葛見庄 江戸北八里

夫熱海と称するは上古此地の海濱ハ温泉ありて津湯浪城煉か多熱

海と名称三面ハ山に成りて南の方陰海ハ對し東部ハ通し船

此津城過る方ハは熱海内崎の村ニツあり 和田村義村とリハ

京山ありま道高のち谷舎の玉ありまの城死し一冊と云は

下の津城をまきまきと云ふ

○熱海三路 ▲北の方小田原の道より前ふまきと云ふ

▲西南三崎小越道五里▲乾井沢▲丸寛の沢▲平井北条西岐とあり

▲大土肥▲八溝▲大場▲三嶋▲南の方細代浦小至二里▲和界村▲上多々

▲下多々小名中▲小山▲和界木▲細代小

○伊東崎の洞

和田淵長頼家の令小と云て俣東が崎の洞ハ多東鏡ハ見と云

○伊東崎の温泉及怪魚

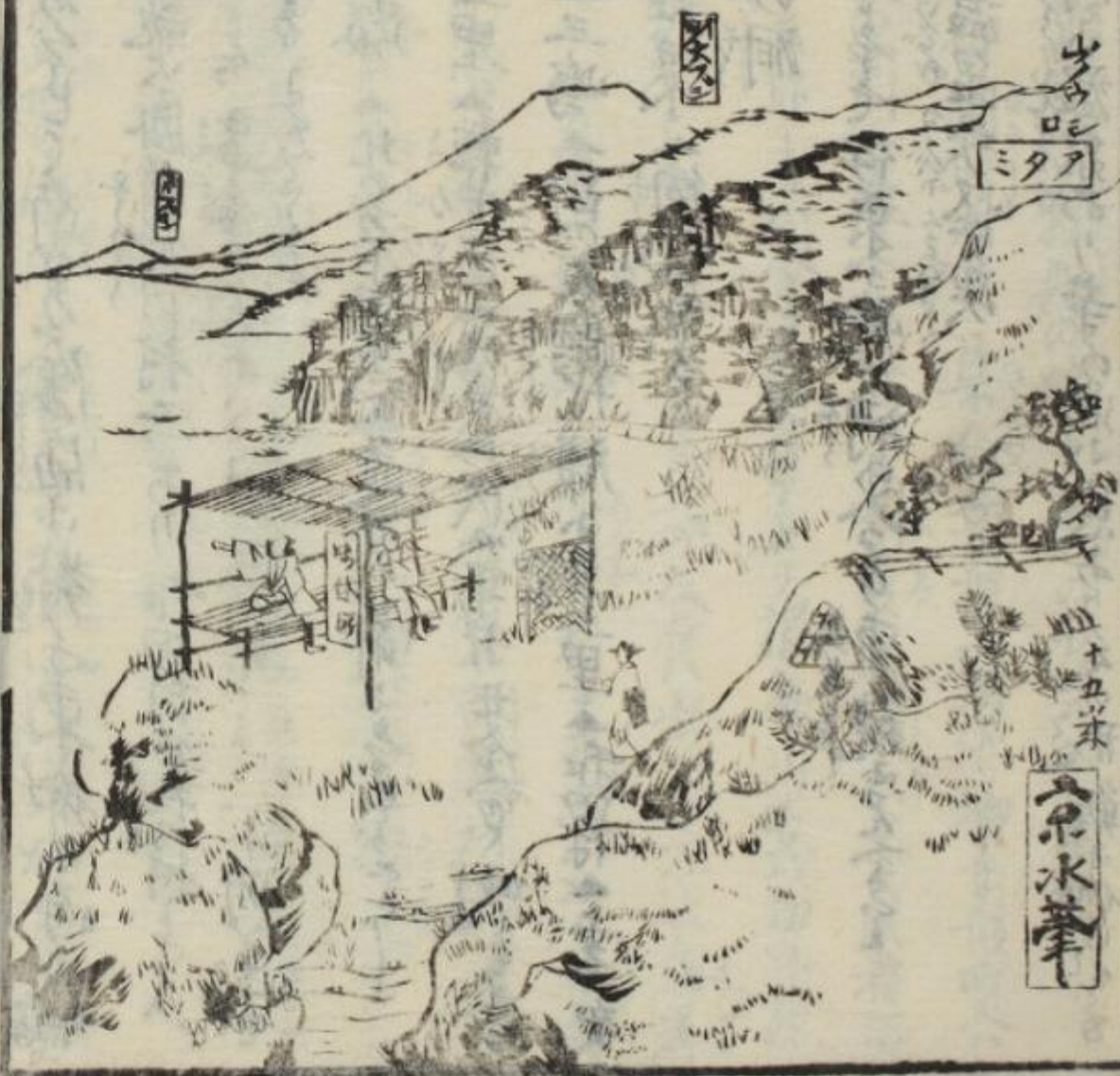
村の中ハ寺ありその創ハ温泉あり寺の池ハ魚ありその形鯉ハ似し

五

江之浦之図

日上紅波
遠製嶽
瀧来白
浪捲去
沙

四圍



京水筆

去年菊丸露

あゝあゝあゝあゝ

ワキそ不老の葉

秋國亭子意

難病もたらまち

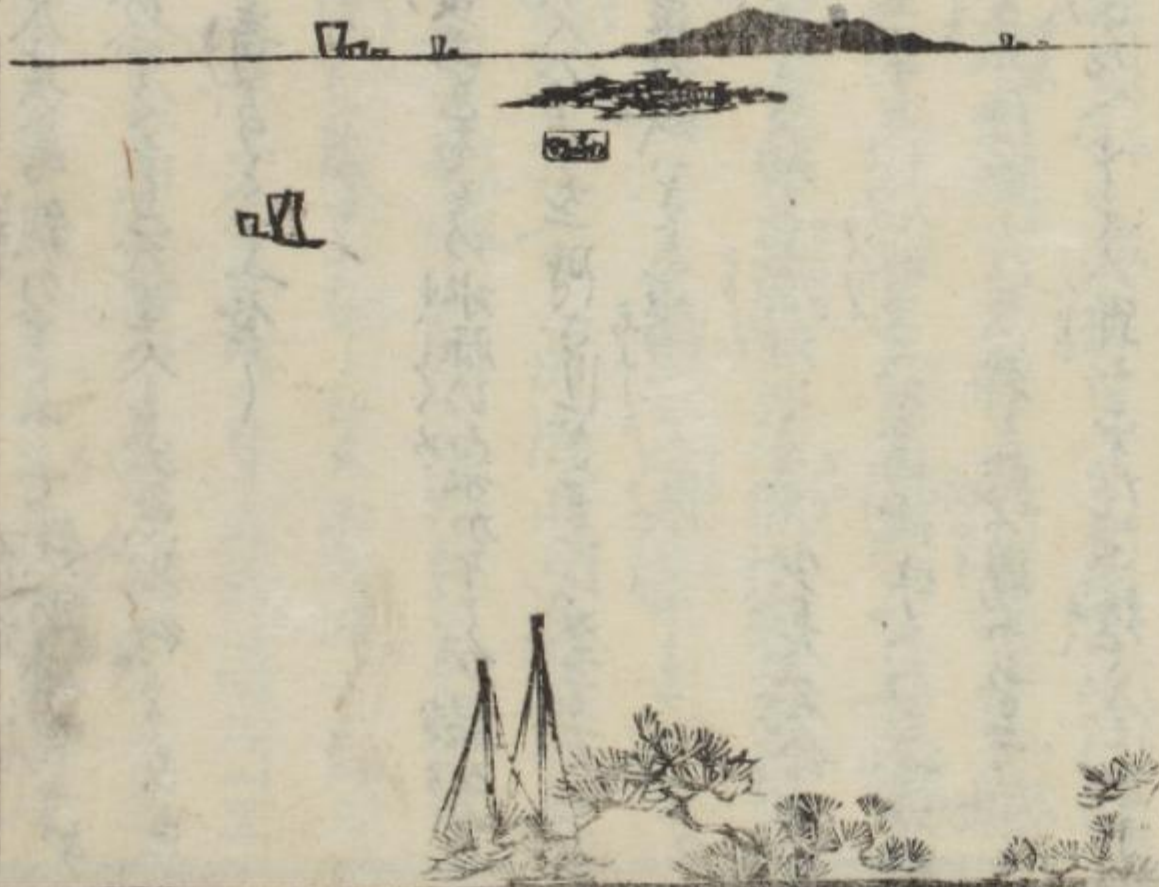
いぢや、執文海

湯平

海軍とま

四谷街

馬士哥道



鯉小あつた大なるもの三尺小なるハ三尺其萬銀のさくふて鉄釣必獲き
糸やまらふごとく網やまらふ紙のじくさるる里人といふ魚得たりあは
と之里此池よかきりて以魚あるも一奇なりといふ也

○熱海温泉由来

博物志煖泉あり凡水係石硫黄おきまき水脈の白泉かきつ温ありと
三秦記ハ驪山の温泉六代仁賢天皇の御宇ハあつた此所
の疾を去ると之里張衡ハ温泉の賦ハさき諸君ハ敬見ハ唐土の
温泉救藥今之に我朝温泉ハ浴て病を療治する少長名命ハ
權輿ハ之を多く熱海の温泉ハ仁賢天皇の御宇ハあつた此所
の海ハ温泉勿心流と湧沸て烟氣海中ハたけ玉熱火湯ハあつた烟
死ら魚の類岸ハ吹きて悪臭ハたけ玉人跡ハたけ玉後ハ星霜

を歴て人王三十九代天智天皇の天平宝字の頃箱根山ハ高徳の沙門あり
日方廣徑を課する万巻ハいる故ハ人呼で万巻上人といふを常湯
鹿野明神ハ兼宿の火熱海の海上成るに清のちを烟り
上昇ハ火焰成て諸の魚焦死する大集熱火の地獄ハとるを上
人の世をアテ烟のひまをく停て煙城よと念仏を唱まふといふく
よと向の海に尋きりて上人ハ對ハ見のふごとくは海中ハ温泉あり
熱湯を吹込んで魚類を焦殺する吾常ハ此をあらはむ志あり
其人の万病を治す不思議の灵湯を海中ハ在るむ玉と開くまづめ
おんひとちふとを佛法の功力をあらて上人といふはのりハ灵湯成山里
小移ハあつた魚類ハ死滅せられ人民ハ病を助るその功徳ハ万葉
小傳ハべいと云とるその形ハさるりね上人おりくこと凡今ハあつた

兼作ぬ来のつげをんと齋戒沐浴し海岸の河ふへり巧食と祈
る三日満乾の夜後のしく鳴動し海上の波濤さきまきて多の音百千
の雷のごくききくして海中山上おどろくをうをけれを上人岩窟をどろお
たりとえりふふ後ら山の本麓小雲のごくたちのおりあり上人怪しむて不
小とりて玉ふふ山崩れて石の間より熱火湯湧るありま多神託
長ひきて水を吐かごとくさそ我が念力の満乾して海中の温泉さふ後りし
かんと上人は所事とまりて兼作ぬ来を祈念し此温泉小功能ありて万
民の病苦救助けりといのなるも一七日やて立去りあひぬ今いそきてあここの里
の大陽と鳴るは是なり天平宝字より今文政十三年小いそきて凡千百余
名一の昔より一日も湯の湧の絶るるたきく実小神変不可思義の美泉
は説里人の口碑小傳ふ百樹別小考あれど
まをく里説小考あれど

○温泉主治

熱海の温泉は関東才の名湯なれど半が遠く地のものと別て其功効詳
小書か人多けれを其功効を記す中風者手足志公は歩行む小
まをせふ小妙之眼病かまも月たれ月の敷ハ七日入湯して同域あを治ま
る小妙之腰の痛脚氣筋牽手赤牙折脇諸の患小寸白痔
脱肛淋病喘息婦人腰の冷懐妊者人気虚血損齒
の痛は湯とや小妙之腫物金瘡は湯小入れ我我を毒とらしそのち余く愈
妙之右左れも医療成るも小妙之けじ水腫服満瘰癧ハ
此湯成性也一湯小の間房事成つてまをせふ小妙之を

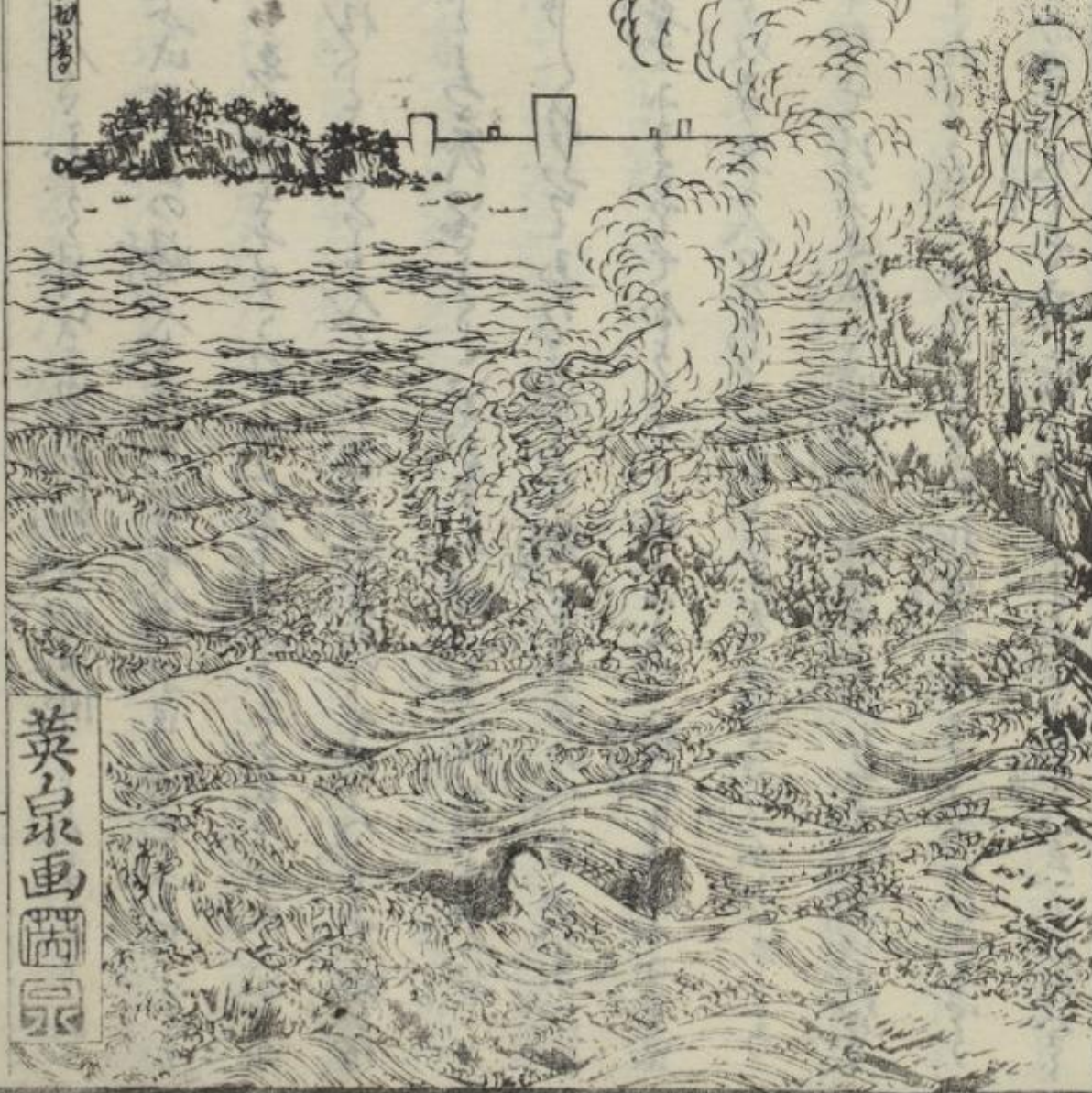
因小云文政十三年七月上旬百樹を地小をなは部氏の客舎小やを
温泉小浴しと多りまの婦人の持持は今幸春の半まをせふ江

余はもとて家ありて時不甲初の人を西郡の一人の老人娘を中年の
女三人下女入徒者二人坂具一と宿しけるが毎のいふやう我ハ痴氣の病
ありいもの娘不痴の病いあるとの病志は湯ふ妙たをとゆてまゝく
そふ来しこまゝは婦ふツの奇病ありりは湯を治さるるもあ
かて保養うごふつはまゝなりその奇病とて六年必あり昼夜眠
るあゝと神心おぼろそぐく枯瘦食をまゝして周所をこの
人小對するも我思の時とて心勝とて人より存せし七歳程の如
かる病もは湯の利チとて同婦人養てふ今づはふりかたを
は温泉に浴一ぬて全快おし久く津多あれと六年の間眠り
か病治一より入閉もを公也をいふ女の手を医療のる人
をりも懐一ゆ子と眠りるまゝは氣血そのひのむらりんは

氣血を補ひ其心致さるる方成身一の功とまればうろろ湯一ぬ
その功能不應ドのうろろもあま一さゆとかりのうろろもあまはと
解つともそ是よりまかの女半余の湯をせりる十余日たるとふあ
能食致喰方時碗致とて三日よと頻に眠り持た碗を
おしとるがうろろもせでぬがけぬがぬんといふ解かるとふあ
より系篠原合を即せけふを日も暮て夜もせがうろろも
然も月致さるるまゝて昼夜三日の間息ある死人のそくわぬが
よまふかやて覚束なくおのひ玉の婦人致ま稀さあとのほは
かまあれ三日のちの食事を能く病ありうん起まきまなと
小間婦人のよ六年の間眠りるまゝとて一日以一年して六
わやもろろかまどそのまふ甘く眠せぬとて扱のうろろも

万巻成
 物千
 ちりり
 いざの
 あんこ
 天平の舟
 去東霞山

初巻



英泉画
 英泉

万巻上人
 某師の
 化現逢
 天宮

天宮



万巻上人

右七日成一まらりと二下廻り老病の動くもあり湯の利が次の一まらりと
老病を療治し又の一まらりと病を補ひ気血攻とのみ支那を健む

○湯味

鹹氣あやそ苦く味を厚け人の脈の鹹氣とあはらむといふと其里人の湯は
糸状ひいて木綿を織るより木綿甚うはげ湯を織るより木綿はさくさくは湯のつみ
るしと少くはま京の遠敷のち茶の湯小用より紫竹はさくさくは湯のつみ
ころじひいとも多のかりともなれたや里言の虚なきは或信を湯に珍瓏
たつとも水見のころく大便つせが人一碗と喫らばうろく通せといふ

○湯潮

湯の潮と昼夜の三交長の時小麥潮六ツ時季中時取遠なるは四十日又
五十日目の終月佛僧は長井と次月の八かたは湯ははし是れ休

その次の月傍る時成さるる二三日成るまでくす前め湯の沸形熱ハ
日中水成者うがごとくはまの蟹の眼のごく小湯をたすよきとち佛湯
小つやま石龍熱湯を吐く二回余もくく大反熱湯吐くはあは
郷貫の雷のごく湯気雲のごく天の上昇する月の毛もよごるを湯
を四方の客舎小引き湯取たると冷して浴せしむる小里言の大湯と鳴ふ

○熱海七湯

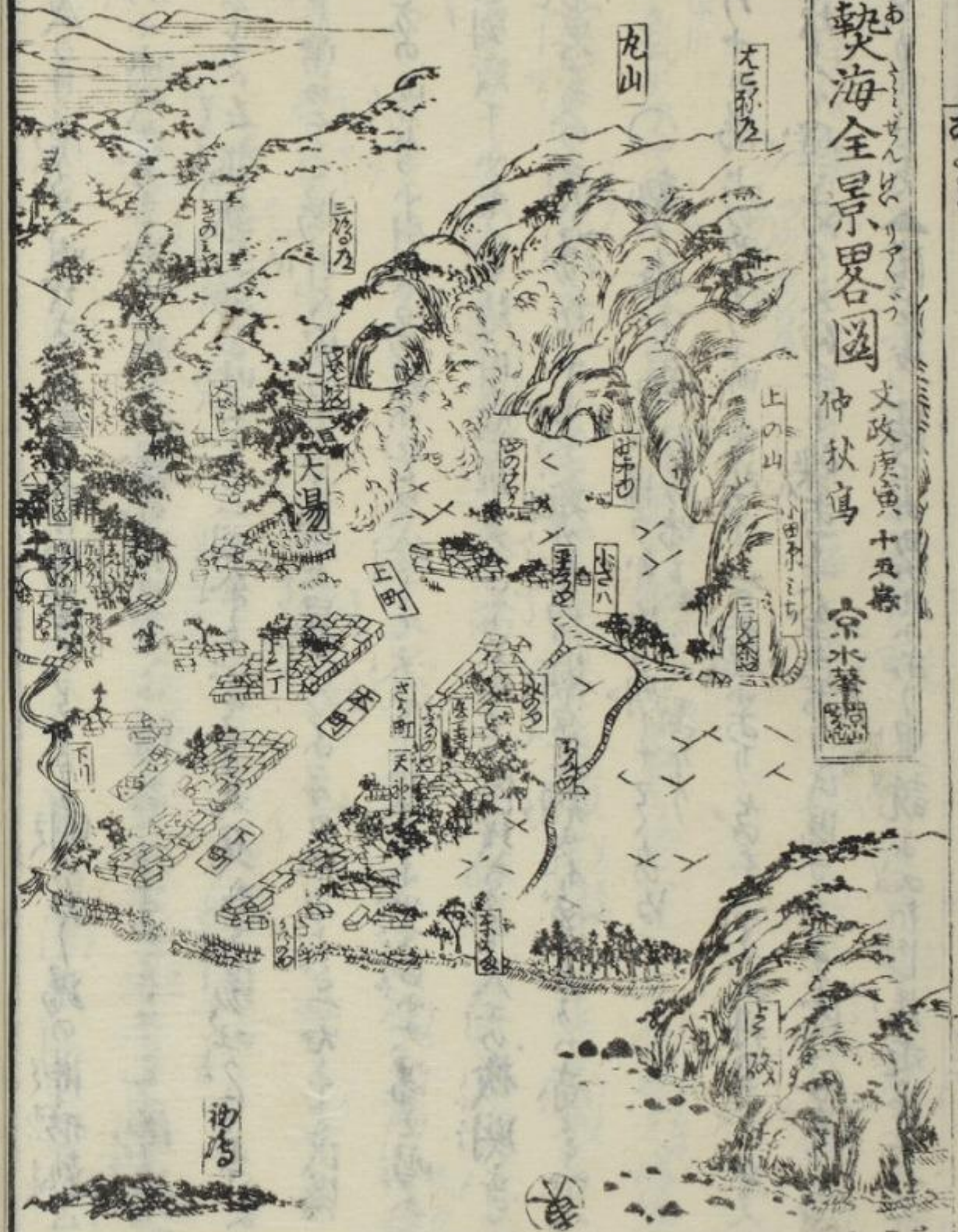
大湯のかわは期々くくめは
湯の味もあつく異なり

野中の湯上の西より一町余北のく山麓小ありそのむすの土丹のごく申入
は土成りて壁とゆる又砂中も礫あて金色ありは湯つらうはくか多湯
外とゆいけぞ

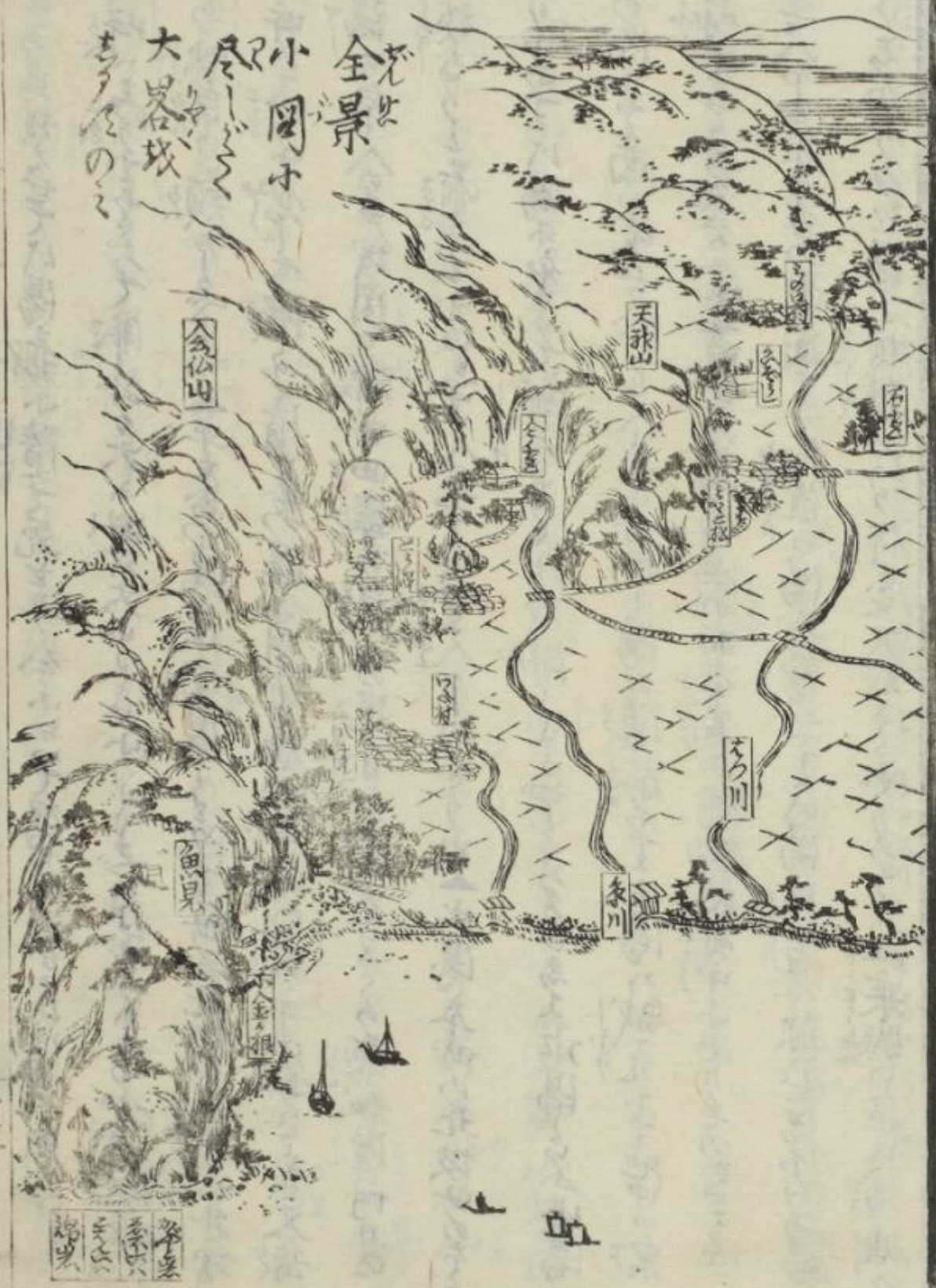
鞆海全景畧図

文政庚寅十五歳 仲秋寫

宗水筆



鞆海全景



宗水筆

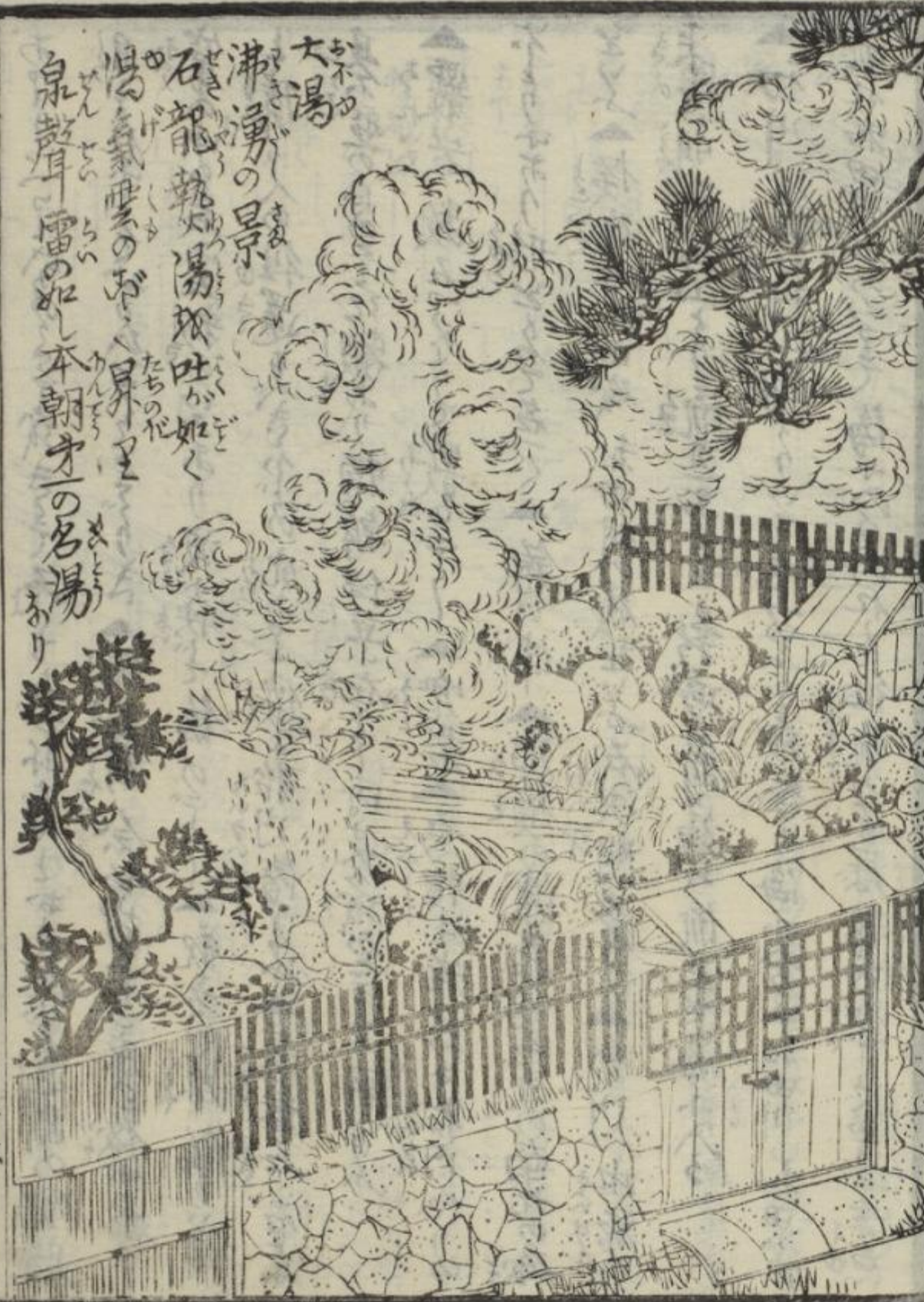
宗水筆

宗水筆

▲初寄のあまこより海上三里東南あり方一里あまりの小嶋
 なりあまこより眺ハ鯨此海にわがこゝ古の沖の小嶋と詠ら
 ハるこたりとよハ仲の小島ま城詠らる物のお後後撰和歌
 集よりとり▲大嶋あまこより南海上十八里嶋の中ふ三ツの島
 山ありて峯千とよ輝りとよなる後間山のごとく熱海の里人のあまこ
 ハ嶋の人お持世に異る多一女ハ眉城をうぐ齒城際をせ長城の
 かくたれ髪おして長さをむまぐれ体巻城まると禮義とて体まさふ
 貴賤のたがひあり絹と木綿を以ていち近年昌平の女風孤嶋も
 うそて時世の粧ひが島もあれを大嶋の女も時世の粧とせさん
 欲もれども此嶋の風俗とて賢才の女城撰て女衆の對とてきて
 女風成同くこれと俚言ふ女頭とよまらる村中の女もかの時世

の嶋田の髪おせんをまづの女頭ふそのの城をひける女尻の田もよ
 ちかおれども後夜風の風ふかぎるをまづのうむう城を今ふらる一家の破れ
 かり一家のまらぬ嶋の中の破れも評一がどそ今ふたれ髪なりを
 遠き嶋ふよめる賢婦あるハあまこも 御代のまらる女也たれ
 髪あて体巻る女の風俗の古風をまらる古き後巻城をまらる他郷
 交接する洋島を古風のまらる城存らるる
 ▲鷓鴣石熱大海の西山城越て二半丹那村の山間ありハ世あまこの某
 春の所一家城まらるてあま石のまらる平地の纏をまらるる酒
 水ハ此用をまらる髪を夫節とてを歌集城ののあま城仙の文
 其技成さるハあま石の郷音らるあつてまらるる声ハひきまのあま一毛と
 今まらる石の丈ハ六尺あまらる幅ハ四尺もあまらる石面ハまらる孔らるる

大湯おほゆの景まゝ
 石龍せきりゆう熱湯ねつゆ吐はか如ごとく
 湯ゆ氣け雲うんのおお界か王わう
 泉聲せんせい雷らいの如ごとく本朝ほんてう才さいの名湯ななゆ
 あり

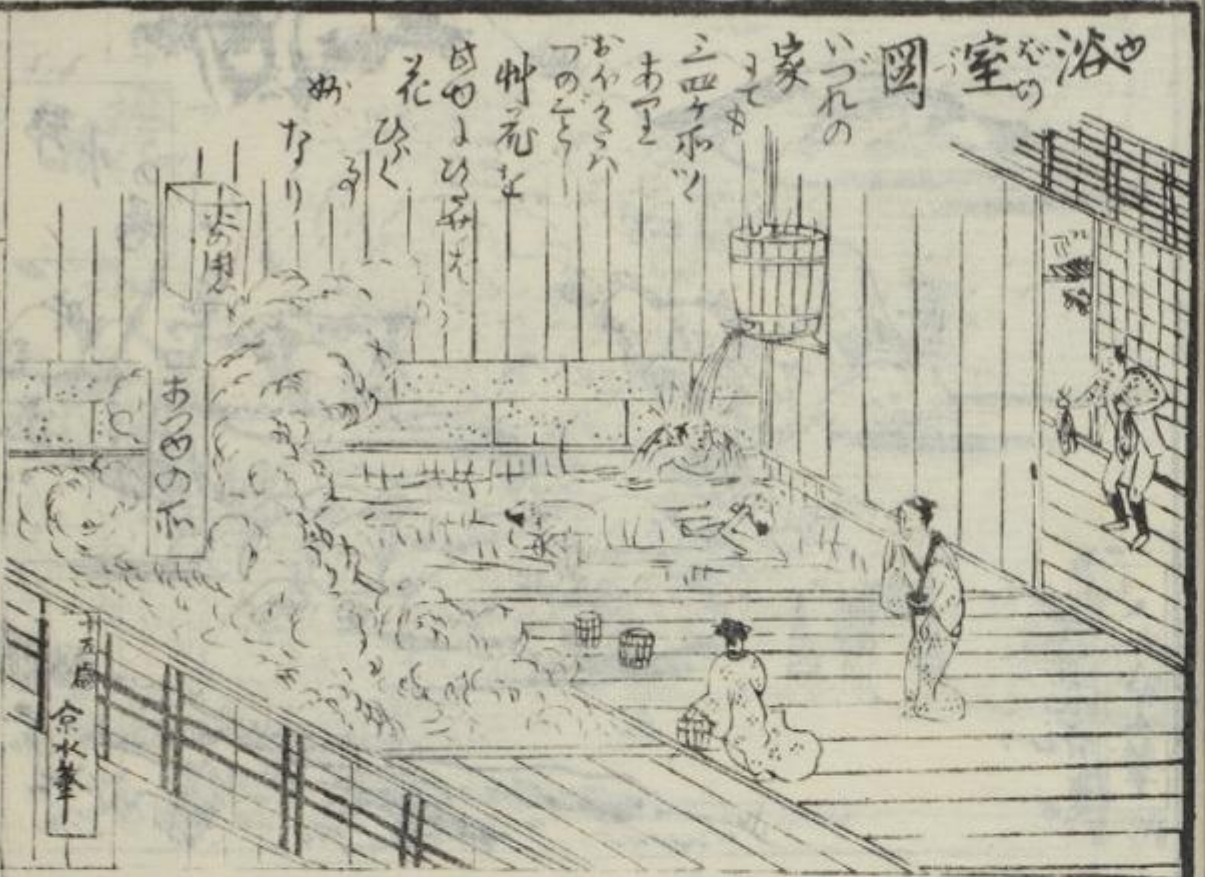


熱海温泉あつみおんせん
 湯源ゆげんの沸湧わきわづ之の
 岡おか

十五歳京水筆



ありと一里いぬるを成きて予もたづねむとありしが逗留の間隙
 眺まれふしとありとありき ▲錦の窟 念仏山のふもと末の穴ありて
 窟の中の岩小五彩のいろあり波小映て錦のごとく ▲観音の窟 錦のふもと
 と隣り人の往還まきわらの穴あり俗に胎内窟とふ ▲碁盤石 石上
 具公盤の目のまじり皺あり頼朝侍果在りし時其跡をまじり所とふ
 ▲霰岩 数五つなりて霰のごとく ▲兜岩 ▲烏帽子岩 共胎内ヶりの
 石より小あり形とらて名づく ▲錦の浦 ▲那須の浦 胎内ヶりの南北の穴
 をよみ ▲榎磯 ▲和田磯 和田村の磯をよみ石決明多し ▲糸川 水湊の
 末宮明津の山より流るるを新所新窟成流して海へ入る
 ▲初川 笠原村山間より流るるを丸山のふもと成流して海へ入る ▲和田川 和田村
 流れ和田村をめぐりて海へ入るはれと細流り流るは橋成架ててかき幸魚



多し ▲業平井 あまき形窟あり
 石の井筒ありあまき業平の跡あり
 よりて名づく ▲三點井 温泉寺の
 川ありあり三點の故よりあまき雲居禪
 師の名づく形ありあまき身の名水
 ありあまき地は温泉寺の金堂ありて
 以井成用ひのふと云 雲居禪師の傳
 温泉寺の下に死に
 ▲多賀一杯水 念仏山成越て細代村
 小川の径の側あり圍り僅一尺余
 小泉あり冷らるる水のまじり清徹なり
 る水見のおく傳へるむと頼朝

野
の湯



十五
御
宗水筆

此地氏遺世時湯水のそま太刀成りて
山城より多しといふ泉成湯といせ
とよ小泉のそまといふ所の炎赫と
乾るる泉名水之

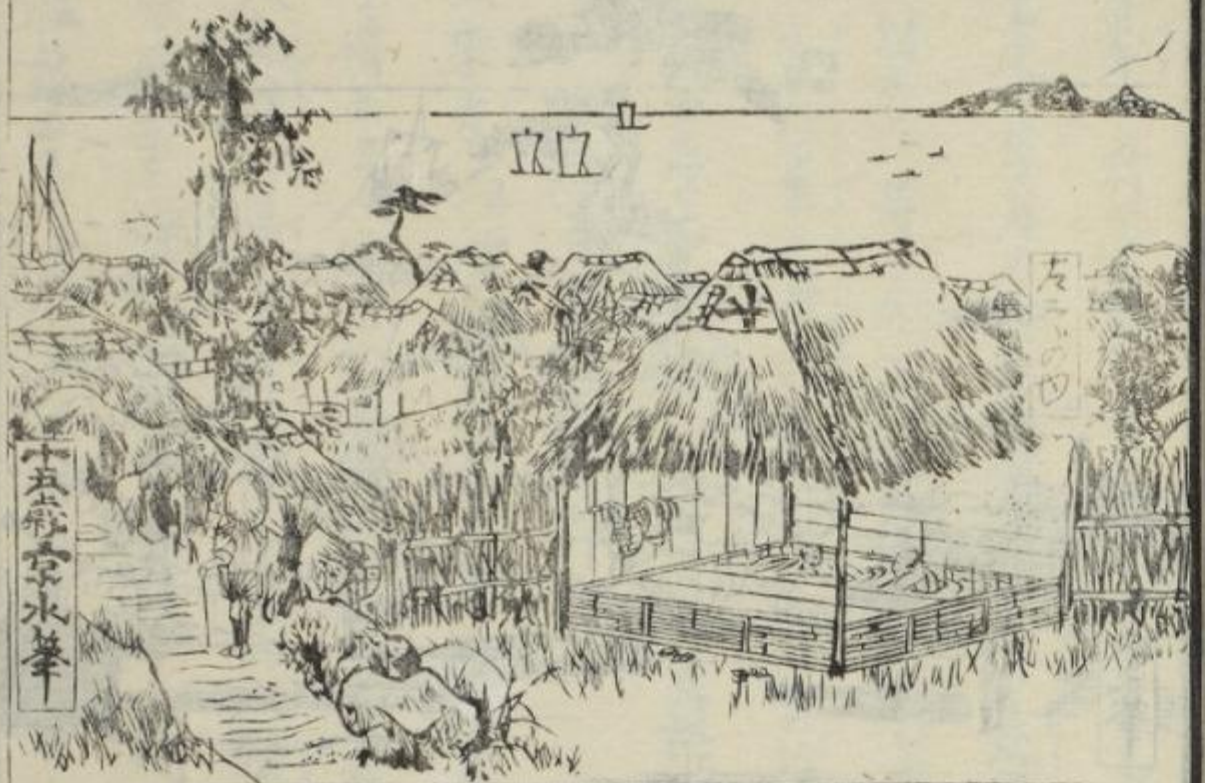
○神社

▲湯前権現 上所より一町余西に在
祀所 少彦名命鳥居の傍小碑
あり明和七年社合建形之文ハ信
陽源通魏書ハ東江平原鱗
千百余年ハ湯泉の起立と云る
天乎勝實元年己丑正月少彦名



十五
御
宗水筆

神憑童曰と云文あり又慶長中
□祖のあふ浴りかひり寛永十
猷廟亦將浴りか兄を命て行殿
戎構り遺跡及調馬場尚存の文
あり石燈籠西基宝曆二年夏久雨
米の天守と云浴りかひり時の御寄附
かろり彫りあり石鳥居安永九年の秋
大寺再び浴りかひり時の御寄附と云
毎年九月十日小祭礼ありとの神
ことハ里人の口碑ハ云つりてふふとせり
▲今宮明神 和田村ハあり祀所



十五卷 京水筆



女田のまね
あなげん

十五卷
京水筆

宮庭とも重修りるを

▲来宮大明神 湯あいの社の西面を

かり山の上あり熱火海の鎮守なり

傳は田和月三年六月十五日あまの里

人相成りて尺をくりたる木像を得る

奠すまゝを其の海中ふせしふ三々まで

廻ふかりたまふ天は怪る岩の上は棄

死しふ和野村の農夫 今来宮の社宮

青木氏の先祖云

おれ我拾ひもそ家も持へりしよそ家

の童お社の獲てりふまうまはこれ五十

猛の命とて海中ふありが時とるを

出現せり此地の北の山お七株の榊あり

て激の声引へざる形あり其地ふ

我をまつと承く村民と法護り

温泉お浴するのたふ恵成りて

冥陽の病お癒せりま成りてと

神神よりて今の形お祀る自來り

おふとふ心を来宮と唱へたる毎

年六月十五日の夜あまの浦とて

ら魚成供と十六日お和樂成慶

の御旅取お移して祭あり

今の神宮青木氏の物語り木の宮の



祭礼の時神輿の上は造りし孔雀の
 稲穂刈合はありは稲穂あまの
 上町の北に住する百姓平左衛門が田のこまふ
 て刈り稲の古根より一茎刈生じて
 実多き毎年祭礼の時とたぐまを
 かねが田稲刈せむかむいりちるエダおくと
 久いぶらじふかの稲とせむら田の備
 小石取つて田の急せとせむ陳ひまきる
 石の間より稲刈せじて神供とせしふ
 その月のまふ平左衛門が家不幸ありが
 次のこま再び平左衛門が田をせむせしむ

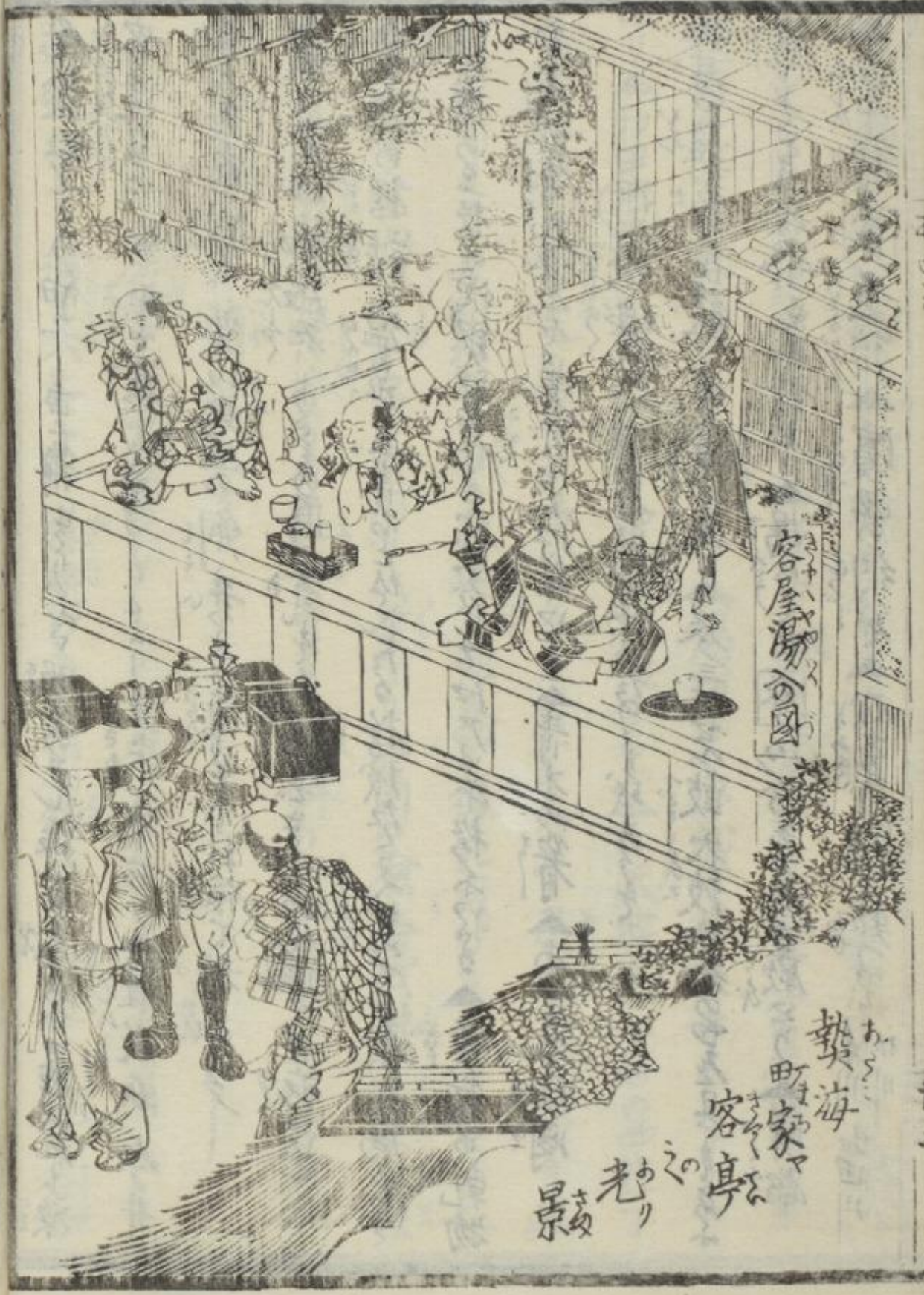
以て一粟を於ては神霊の赫くはれん
 小田更らるるのたぐふ鳥居あり走湯山東明寺と云別為成般若院と云
 十二坊あり昔は今もも廣大かりし大社うらるる東鏡小詳なり・拾遺
 ・扶木・松葉・哥枕名寄ホ古お成のせむる回廊より神霊のあまのこまふ
 晋く人のあまのこま右井の社伊豆権現の西北あり古おの回廊に

○寺院

▲大乘寺 月蓮宗 あまのこま上町の西半町ありは寺小日蓮上人自作の木像
 あり傳云上人任豆へ左遷の時三米のま像成刻とありは成安寺に傳ふ又
 上人真跡の言多程あり信公の人稱賢成社を許して穉まむ
 ▲海藏寺 妙心寺 上町の南三町 開山悟庵和尚中興清溪和尚
 ▲温泉寺 妙心派 上町の西三町余 傳云文治五年頼朝の創構



歌川國安画図




客屋湯の國

熱海
町家
客亭
老の
景

懐客やうり成りしめ其のまより食する成妨ハ一まより七首の食
料を多く金百疋湯料として浪文の成定より自分も然
とて其の食料よりづの糸帳面を多くしてをる家ありか各を
たぬ水桶の多座敷毎ふかけありて成かふるはかけぬ水にて
自在成るも時小清水之供人成召具せざる人自分も成せんと
まはば備女ありて朝来りて夕かたる食する成調小馴て信実
小休やうりま人の成し成りかたる婦人ありて成り備せせ
夜具雑器の類ハ損料を其まより成遊藝の具も成り成り
座敷料ハあじより成り成り成り成り成り成り成り成り成り
心ある一▲あまより小田原近り成り成り成り成り成り成り
人一人之成り成り▲村中の成り成り成り成り成り成り成り成り
山村ハ世界と成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り

花美小後なつみなるや成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り
病の為人医療の成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り
けはば上梓と成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り
編者の老波女心たり

山東庵京山 

熱海温泉図景文尾

文政十三年秋七月於熱海客舎一を成り下之

旅自採筆

重國

岩瀬京水

全

溪齋英泉

歌川國安

備書

浴檜舎楓川

天保三年辰秋 江島養馬三月

山口屋藤兵衛板

上律卷宛

